



GLOBAL MAPPING NEWSLETTER 50

第15回地球地図国際運営委員会会合

カレン・ムンロー博士
ISCGM 事務局次長



第15回地球地図国際運営委員会会合は、地球地図フォーラム2008に先立ち、6月4日に東京で開催されました。本会合は地球地図の第2期がほぼ終わり、第3期に入る準備をしているため、特に重要でした。第2期では地球地図第1.0版が完成し公開される予定です。地球地図フォーラム2008でブータン、モルドバ、米国及びセントビンセント及びグレナディーン諸島の地球地図が公開されたことにより、地球の地表の59.5パーセントが地球地図第1.0版として利用可能となることを意味します。

第2期がほぼ終わり、地球地図第1.0版が2008年末までに完成する見込みとなり、第3期に作成される予定の地球地図第2.0版の枠組みが確立され始めています。数件の重要な課題が審議されました。

最近の技術的進歩を反映し、地球地図データを既存のソフトウェアや他のデータと相互に運用できるようにするため、地球地図仕様を改定する必要があります。ISCGM委員機関の経験を仕様改定作業に活用することが重要です。

土地利用を農地に置き換えるラスターデータ・レイヤの変更が提案されました。これについて参加国家地図作成機関(NMO)に意見照会のアンケートが

送られる予定です。本会合での総意は、現在の土地利用レイヤは、既存の土地被覆・樹木被覆データから計算することができるため、導き出された土地利用データには追加となる情報が全く含まれないことです。

その他の重要な項目は研修を受けた職員の必要性です。研修をすでに受けている途上国の機関では、研修を受けた職員が離職している場合があります。これは地球地図への参加の継続と、自国の地球地図の今後のバージョンへの更新能力の妨げとなっています。

地球地図国際運営委員会事務局は、ミャンマーの水害等、最近の災害について救援機関にデータを提供しており、これを継続する予定です。約2日の対応時間があり、その間に事務局は地球地図データが適切かどうか判断します。事務局では災害時の連絡とデータ共有を円滑にするため、機関・連絡先リストを作成する予定です。

第1.0版の概成や次期の第2.0版の枠組みの確立等、地球地図にとって興味深い時期です。第3期と地球地図第2.0版が始まる中で、本会合で多くのアイデアが出され、今後引き続き検討される予定です。

第 15 回地球地図国際運営委員会会合決議（仮訳）

日本・東京
2008 年 6 月 4 日

1. 参加とデータ整備

a) 地球地図国際運営委員会 (ISCGM) は、(2つのレイヤを除いて) 全球陸域の約 60% について地球地図第 1 版が整備されたことを認識し、地球地図データ整備に関する参加機関の継続的な努力と事務局の支援に感謝する。

b) ISCGM は、全球土地被覆、全球樹木被覆率(植生)の第 1 版が整備されたことを認識し、作成に携わった WG4(ラスターデータ)とグランドトゥルースデータの提供と途中成果の検証作業に貢献した 41 ヶ国の NMO の取り組みに感謝する。

c) 第 14 回 ISCGM 会合以降、地球地図プロジェクトの参加国数は着実に増加しているが、未参加国の参加を奨励するためにさらなる努力が必要である。この点において、これらの国々に対する委員、顧問、リエゾン機関及び他の関係機関の働きかけを奨励する。

d) 第 14 回 ISCGM 会合以降、地球地図第 1 版データの整備は著しく進展したが、整備が未完了の参加国は遅くとも 2008 年 12 月までにデータを事務局に提出するよう強く奨励する。

e) ISCGM は、地球地図データを検証中の参加機関と事務局に対し、検証作業を促進し、2008 年 12 月までに地球地図第 1 版で整備される地域をできるだけ広げるよう奨励する。

2. 地球地図の公開

a) ISCGM は、全球土地被覆 (GLCNMO) 及び全球樹木被覆率(植生)を地球地図第 1 版として 2008 年 6 月 5 日に公開するよう決議する。

b) ISCGM は、第 14 回会合の決議により、既存のデータを活用して仕様を変換して事務局が作成した地球地図で、当該国または地域の了解を得ていないデータを非公式な地球地図データとして 2008 年 6 月 5 日に公開することを了承する。

c) 委員、顧問、リエゾン機関およびそのほかの参加機関や事務局が引き続き地球地図を積極的に宣伝するよう奨励する。

3. 地球地図アウトリーチ活動

a) ISCGM は、日本の国土交通省による地球地図シンポジウムの開催など、日本のアウトリーチ活動に感謝するとともに、地球地図の利用促進を図るため、委員は積極的にアウトリーチ活動を行うよう奨励する。

b) ISCGM は、上記のアウトリーチ活動が、環境保護、自然災害の軽減や持続可能な開発の達成のための研究や政策策定、また、教育やそのほかの分野における地球地図の広範かつ効果的な利用に結びつくことを期待する。

c) ISCGM は、事務局と参加機関が地球地図に関する意見を収集するためにコンタクトポイントのリストを作成するよう奨励する。

4. 戦略計画

ISCGM は WG2(仕様)による地球地図の仕様(バージョン 1.3)の改定案作成にあわせて、WG1(戦略計画)が第 3 期の戦略計画の詳細版を提案するよう奨励する。

5. 仕様

a) ISCGM は、地球地図第 2 版の仕様及び形式に

関するWG2(仕様)とそのコアメンバーの取り組みに感謝し、作業を完了するよう奨励する。

b) ISCGM は、委員がWG2(仕様)の活動を支援するよう奨励する。

6. 人材育成

a) 地球地図整備を促進するために人材育成が著しく重要であることに鑑み、ISCGM は、アフリカ地域における人材育成に関するJBGISの活動、日本政府の地球地図パートナーシッププログラムや日本の国際協力機構(JICA)及びセネガルの地理地図事業局(DTGC)を含むセネガル・ダカールにおける地球地図セミナーの主催者及び協力者の貢献に心から感謝する。

b) ケニアの測量地図学院が、日本の国際協力機構(JICA)を通じて日本政府、また、ケニア測量局を通じてケニア政府との支援により設立されたことを認識し、JICAの支援により、当学院は、これまでと同様、当地域の人材育成に引き続き活用されるものと考えます。

c) ISCGM は、米州地域の地球地図整備の調整及び支援を行っている汎米地理歴史研究所(PAIGH)の協力に対し心から感謝する。

d) ISCGM は、1994年以来、毎年日本で行われているJICAによる地球地図作成技術に関する集団研修が果たす役割に心から感謝する。

e) ISCGM は、ESRIによる地球地図/GSDI グラントプログラムやINTERGRAPHによる人材育成のためのグラントプログラムに対し、引き続き心から感謝する。

f) ISCGM は、委員が積極的に人材育成活動に貢献するよう奨励する。

7. 関係機関との連携

a) ISCGM は、アフリカで災害管理や人材育成の支援活動を行っている国際地図学協会(ICA)やJBGISと協力関係を継続する。

b) ISCGM は OneGeology プロジェクトとの協力関係を継続する。

8. GEO

全球地球観測システム(GEOSS)構築における地理情報の重要性を認識し、ISCGM は、委員、顧問、リエゾン機関やその他の関係機関が、地球観測に関する政府間会合(GEO)に関する活動に積極的に関与するよう奨励する。

9. 次回会合

ISCGM は、委員と事務局が協力し、出来るだけ早期にISCGMの次回会合の期日と開催地を決定するよう勧告する。

10. 謝辞

ISCGM は、今回の会議開催にかかる日本国土地理院の労に心から感謝する。また、ISCGM事務局の会議準備、地球地図フォーラム2008の主催及び実施、また、すべての参加国に対する技術的なサポートの提供に対して心より感謝する。



地球地図フォーラム2008

中川 勝登
ISCGM事務局

2008 年 6 月 5 日から 3 日間にわたって、「地球地図フォーラム 2008」が、日本の国土地理院、ISCGM 及び国際連合大学の共催により、東京と横浜において 26 ヶ国から 300 名以上が参加して開催されました。地球地図フォーラムの開催は 2003 年の日本の沖縄以来 5 回目となります。

世界環境デーでもあるフォーラム初日の 6 月 5 日は、日本の平井国土交通副大臣と国際連合大学小堀上級学術顧問の開会挨拶で始まり、テイラー委員長による基調講演、小牧国土地理院長の地球地図の概要報告、小島環境省地球環境審議官と月尾嘉男東大名誉教授による政府の立場と有識者の立場からの地球環境や地球地図に関する特別講演が行われ、続いてチェン国連統計部長、ラティア前 GSDI 会長、温暖化研究の専門家である住東大教授及び日本の経済界の団体である日本経団連の椋田常務理事による講演において地球環境に関する取り組みと地球地図をはじめとする地理情報との関わりについて、それぞれの専門分野、立場からお話をいただきました。

初日の日程終了後には、国連大学内で懇親会が開催され、冬柴国土交通大臣にもご出席いただきご挨拶をいただきました。

2 日目は地球地図の作成者、利用者による 18 の口頭発表と 15 のポスター発表が行われ、地球地図の作成や利用の実例またはその可能性について多くの紹介がなされました。その後、地球地図の今後に向けてパネルディスカッションが行われ、最後に参加者全員のディスカッションにより「地球地図東京宣言」が採択されて、国連大学における 2 日間の日程を終了しました。東京宣言では地球地図が地球環境に関わるすべての人々に共通の認識を与



平井国土交通副大臣による開会挨拶

えるものであり、そのために利用しやすいものでなければならぬこと、また、利用者と作成者の連携が必要なこと、さらに人材育成の必要性などがうたわれています（別添で全文を掲載）。

最終日はエクスカージョンとして「地球地図の学校」を参観しました。

地球地図の学校は、異なる国同士の学校の生徒が地球地図を題材に交流授業を行う試みです。日本の国土交通省が地球地図の利活用を図るために実施している「地球地図アプリケーション戦略」の



冬柴国土交通大臣の挨拶



テイラー委員長の基調講演



月尾先生の特別講演

一つです。地球地図の学校は、慶応普通部の太田教諭が中心となって進めており、今回が3回目の開催となりました。

今回は、太田先生の慶応普通部・中等部の生徒とタイ国のプリンセスチュラボーンズカレッジ・ナコンシタマラート校の生徒との間で行われました。両校の先生方の適切なリードにより、子供たちは、地球地図を用いながらお互いが住んでいる国や地域について紹介するとともに、地球環境についての意見交換を行いました。

この交流授業を参観するエクスカージョンには、全体で35名が参加し、日本側の会場となった横浜の慶応普通部を訪れました。

交流授業終了後、太田先生及び日本側関係者とエクスカージョン参加者との間で意見交換が行われ、参加者からは地球地図を用いたこの交流授業を高く評価するコメントが数多くありました。

このエクスカージョンを最後に今回の地球地図フォーラムは3日間のすべての日程を終了しました。フォーラムに参加されたすべての皆様のご協力に深く感謝申し上げます。



慶応普通部太田教諭



交流授業に参加する慶応の生徒たち



交流授業後の意見交換

地球地図東京宣言

日本の東京で開催された地球地図フォーラム2008には、世界26ヶ国から346名が参加し、地球地図第1版の概成を祝すとともに、地球環境問題や他の地球規模の課題への対処を目的とする地球地図の整備と利用に関して議論を行い、2008年6月6日の閉会セッションで以下を採択した。

思い起こせば1992年の地球サミットにおいて、世界の国々が地球環境問題を取り上げ、アジェンダ21が採択され、地球地図の整備を進めるためにISCGMが設立され、そして2002年にヨハネスブルグのWSSDで地球環境が再び議論され、地球地図の整備目標が支持された。

我々は、ここに至るまでの世界179に及ぶ地球地図プロジェクト参加国と地域の努力と取り組みに敬意を表する。

同時に、地球地図のさらなる利用拡大に向けて取り組みを進めるとともに、未参加国に対しては引き

続き参加を呼びかけ、地球上全陸域が整備の対象となることを目指していく。

我々は、気候変動、森林減少、砂漠化などの地球環境問題が人類の重大な問題となっていること、世界のリーダーが集う7月のG8北海道洞爺湖サミットで気候変動問題が主要テーマになること、地図関係者を含めすべての人々が、この課題の解決に向けて貢献する必要があることを認識する。

世界統一仕様で、かつ国際的に承認された標準に基づいて、人間活動の実態とその影響を正確に示す地球地図を作成するために必要となる地球地図の利用者と作成者の連携の強化と調整が求められている。地球地図は地球上に生きる人々の間に共通の認識を与えるものである。地球地図は、人類が直面する共通の環境問題を解決するための意思決定に役立つようより利用しやすく、かつ有効なものでなければならないこの点において、開発途上国に対する人材育成活動は特に重要であると認識する。

地球地図シンポジウムの開催報告

国土交通省総合政策局国際建設室国際協力官
中村 孝之

国土交通省は、平成 20 年 3 月 26 日（水）、時事通信ホール（東京・銀座）において地球地図シンポジウムを開催しました。当日は、教育関係者、環境・防災 NGO、地図関係業者、マスコミ関係者等 250 名以上の参加がありました。

国土交通省は、平成 15 年に有識者からなる「地球地図アプリケーション戦略委員会」（委員長：月尾嘉男東京大学名誉教授）を設置し、データの利活用促進のための行動計画である「地球地図アプリケーション戦略」を平成 16 年に策定しました。

これまで、この行動計画に基づき、「地球地図の学校」を始め、環境、防災、教育等の各分野においてモデル事例を推進し、地球地図の認知度を高め、利活用拡大に努めてきました。

本シンポジウムは、その取組みの一環として、地球環境問題が主要な議題となる北海道洞爺湖サミットの開催や地球地図の全球陸域データの概成に合わせて、地球規模の問題をはじめ、様々な分野における地球地図の有用性・貢献の可能性を考えるために開催しました。

シンポジウムでは、第一部として、月尾嘉男東京大学名誉教授による基調講演「地球地図の意味」、第二部として、①小牧和雄国土地理院長による政府の取組みの説明、②環境、教育、防災、国際交流等の分野における利活用事例の発表、③地球地図の活用と今後の展望を考えるパネルディスカッションを実施しました。

利活用事例として、ボルネオ島の希少動物の生息域について標高、樹木被覆率データを用いた解説がありました（増井光子よこはま動物園ズーラシア園長、タレントの眞鍋かをりさん、小牧院長）。また、「地球地図の学校」（太田弘慶應義塾教諭・フェリス女学院大学講師・地球地図の学校実行委員会委員長）、防災協働学習（納谷淑恵NPO法人グローバルプロジェクト推進機構「防災世界子ども会議」副代表）や渡り鳥の研究（尾崎清明（財）山階鳥類研究所標識研究室長）における地球地図の利用について発表がありました。ロビーにおいても事例

紹介を行いました（沖縄尚学高等学校、慶應義塾普通部、NPO法人グローバルプロジェクト推進機構）。

パネルディスカッションは、山根一眞氏（ノンフィクションライター）をコーディネータとして上述の事例発表者の参加のもと行われました。研究者の立場から、時系列データや海洋データ整備の期待などが述べられました。国際交流を行っている立場からは、英語マニュアル作成や利用技術習得のためのワークショップ開催の要望などがありました。また、インターネットで誰でもが閲覧、利用できる環境整備や、様々な重ね合わせデータの整備、GPS との連動、地球地図コンテンツの拡充、地球地図の愛称募集などについて提案がありました。

今後は、いただいたご提案を踏まえ、より使いやすく便利な地球地図となるよう、国土地理院と連携して取り組んでまいりたいと考えています。

参考 URL : 「みんなの地球地図プロジェクト」
<http://www.globalmap.org/>



パネルディスカッション



利活用事例紹介

TICADIV（第4回アフリカ開発会議）と地球地図

国土交通省総合政策局国際建設室国際協力官

中村 孝之

平成20年5月28日（水）～30日（金）まで、横浜市においてTICAD IV（第4回アフリカ開発会議）が開催されました。

TICADは、日本政府が国連や世界銀行などと共催するアフリカ開発をテーマとした国際会議で、平成5年以降5年に一度開催されています。

今回、40名の国家元首・首脳級を含むアフリカ51カ国から参加があり（国際機関、ドナー、民間、NGO等含め3,000名以上）、「成長の加速化」、「人間の安全保障の確立」、「環境・気候変動問題への対処」を主なテーマとして議論がなされました。

TICAD IVの成果文書の1つとして「横浜行動計画」があります。これは、今後5年間でアフリカ諸国に対して具体的にどのような支援を行っていくかを示した文書です。この「横浜行動計画」に地球地図に関する支援が明記されました。

横浜行動計画（抄）

環境・気候変動問題への対処

TICAD プロセスの下で今後5年間に取られる措置

2. 適応

- ・今後5年間で、アフリカ全土の環境状況を描写するグローバル・マップの整備や更新等の技術支援を促進する。

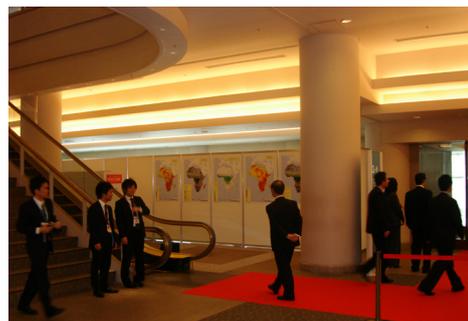
国土交通省は、これまでアフリカ地域に対して地球地図パートナーシップ・プログラムの一環である地球地図アフリカセミナー（平成14～16年度にケニア、平成17～19年度にセネガルにおいて、国土交通省、ISCGM、開発のための資源地図地域センター/セネガル測量局の共催）やJICA研修（国土地理院受入れ）を通じ、地球地図の整備・利活用に関する技術支援等を推進してまいりました。今後もアフリカ諸国とのパートナーシップを拡大し、引き続き支援をしてまいりたいと考えています。

地球地図は、今回のTICAD IVでは様々な場面

で登場しました。開会式会場では福田総理のスピーチが始まる直前まで地球地図の樹木被覆率、土地被覆、標高データがスクリーンに投影されました。テーマ毎の分科会においても議論の参考として投影されました。また、参加者へのクリアファイルの配布（2,000部）、1F入り口付近での地球地図の展示、TICAD IVとISCGMのホームページの相互リンクも実施しました。これらは外務省及びISCGM事務局に協力頂き実施しました。

参考：外務省 TICAD IVホームページ

http://www.mofa.go.jp/mofaj/area/ticad/index_tc4.html



1F入り口付近での地球地図の展示
（地球地図がアフリカ各国代表を歓迎）



開会式直前の様子
（スクリーンは正面両側に設置）



分科会の様子

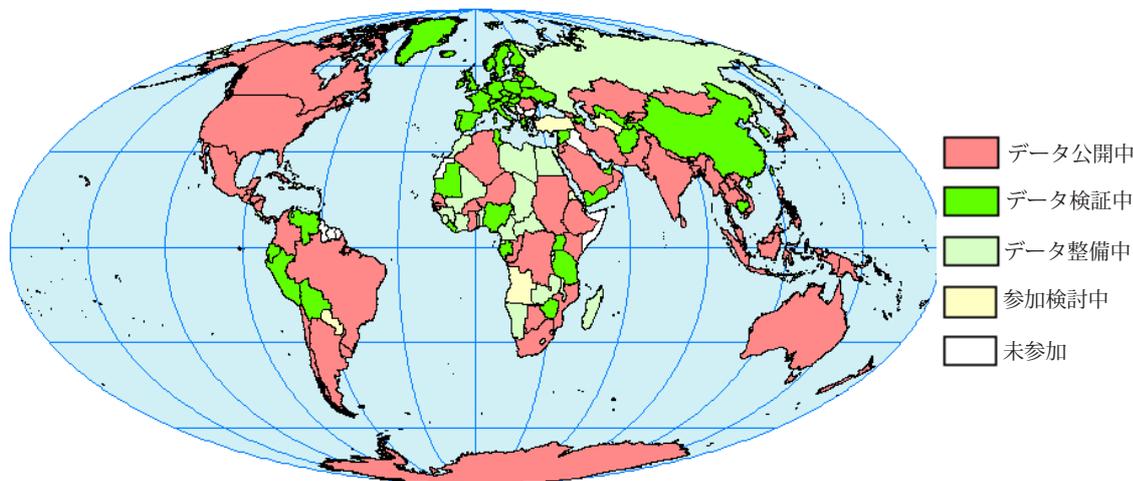
事務局から

1996 年 2 月地球地図国際運営委員会が設立され、その翌月の 3 月に NEWSLETTER 第 1 号発刊から数えて今号で 50 号を迎えることが出来ました。

環境をはじめ、様々な分野で活用が出来る地球地図の情報誌として、今後も情報提供していきますので、一層のご支援とご協力をお願いします。

地球地図公開と地球地図プロジェクトへの参加

2008 年 3 月 25 日に前回のニューズレターが発行されてから、16 カ国の地球地図が公開されました。それらの国名とデータ公開日は、パキスタン（4 月 14 日）、オマーン及びパプアニューギニア（4 月 15 日）、ベリーズ（4 月 30 日）、ホンジュラス及びコンゴ民主共和国（5 月 8 日）ニカラグア及びセントルシア（5 月 13 日）、エチオピア（5 月 15 日）、セネガル（5 月 21 日）、コンゴ共和国（5 月 23 日）、セントビンセント及びグレナディーン諸島、モルドバ、ギニアビサウ及び米国（6 月 3 日）及びブータン（6 月 5 日）です。現在、163 カ国 / 16 地域が地球地図プロジェクトに参加しています。



地球地図及び関連の会議

以下は地球地図及び関連の会合の予定です。関連の会合についての情報を歓迎します。

2008 年

- 7 月 3 日～11 日、中国、北京
第 21 回 ISPRS 会議
- 8 月 19 日～22 日、マレーシア、クアラルンプール
第 14 回 PCGIAP 会合及び国際土地管理と空間情報活用による政府に関するシンポジウム (ISCGM 非公式会合を含む)
- 11 月 10 日～14 日、スリランカ、コロンボ
第 29 回 アジアリモートセンシング会議 (ACRS)
- 12 月 4 日～5 日、日本、つくば市
第 27 回 ISO/TC211 本会議

2009 年

- 5 月 24 日、米国、ニューヨーク
UNRCC-Americas 会議
- 5 月、ノルウェー、オスロ
第 28 回 ISO/TC211 本会議
- 6 月 15 日～19 日、オランダ、ロッテルダム
GSDI 11 会議
- 11 月、チリ、サンティアゴ
第 24 回国際地図学会議 (ICC 2009)

編集・発行：地球地図国際運営委員会事務局

連絡先：〒305-0811 茨城県つくば市北郷1番 国土地理院内

Tel: 029-864-6910 Fax: 029-864-6923

ホームページ: <http://www.iscgm.org/>

E-mail: sec@iscgm.org